

タイトル
みんな代表選手

作者
高橋不出来

一文あらすじ
出会う相手をスキルアップしてしまう高校生の話。

登場人物
佐藤零 高校生
中村晴代 大学生
田中七海 モデル講師
鈴木修治 元自衛官
渡辺富之 スノボ講師
菜乃麻英 微細補修機
菜乃麻微 微細補修機

佐藤零には、秘密があった。
僕は年を取らないらしい。
吸血鬼ではない。人魚も食べてない。
当局に見つかればヤバイ。
モルモット？魔女狩り？
身分証とかはお金で工面。
定住は出来ない。20年位が限界。
死ぬことができるか、試した事はない。
何か役割があって、特異体質になったのか。
化け物ではないし、いたって普通。
ただ、出逢う人は 強くなる気がする。
気のせい？私のせい？

中村晴代は、馬が怖かった。
馬事公苑で、映画撮影に乗馬エキストラ参加中。
桜吹雪に鶯の声。
馬にしがみ付いていた、新入部員の私。

振り落とされそうで超怖かった。

「中村さんは、後ろに反ると良いかも」

乗馬クラブ先輩の佐藤君の一言に太腿も力が抜けた。

座骨が愛馬プリン号の背中に安定。

プリンって暖かかったんだ。

お尻で馬をコントロールできる。

怖かった高さも、今はめっちゃ気持ちいい。

「中村さんがプリンと相性が良いんだよ」

叱るばかりの父と違う。

肯定してくれる佐藤君。

ありがとう。

あのリストバンドは、まだ光りますか。

バンプのライブにまた行きましょうね。

え？高校生だったの？

田中菜摘は、泳げなかった。

バカンスの古座間味ビーチでシュノーケリング。

波打ち際で枝珊瑚がカラカラなっている。

私の下30センチにコバルトブルーの瑠璃スズメダイヤ

エメラルドグリーンのデバスズメが群れている。

9歳の時、泳げなくてスイミングに入った。

参宮橋近くオリンピック選手村のプール。

参宮橋五輪選手村で男性アイドル王国は誕生した。

ユーミンのライブが300円でバックは山下達郎ってやってた、

教会地下ライブハウスジャンジャン前の市役所通り。

パルコができて改名の公園通りをいやいやスイミングの通っていた。

スパルタ式って先生のストレス解消？

背中に赤い手形付けられ泣いていた。

アルバイトの佐藤コーチ補助が

「田中さん、つま先と手の先をうんと離して御覧」

伸びて伸びて、浮いた。手を掻くのも楽。

シーカヤックみたいに、スーッと進む。

「田中さん、菊の花も。お尻きゅっと」

コツをつかんだ私は、自由形でメダルを取った。

零の魔法の言葉で、ランウェイモデルにもなった。

今は、新人のウォーキングインストラクター。

油断して歩くこたちに「菊の花」って声をかけると、
お尻がしゅっと高くなる。背筋がずっと伸びる。
魔法の言葉をありがとう、佐藤コーチ補助。
今は優雅なバカンス。

鈴木修治は、走るのが遅かった。
渡良瀬遊水地上空3000m降下中。
風切り音。
高度4000mで飛行機を離れた。
薄い雲を突き抜ける時、パシパシと水滴が顔を打つ。
時速200キロで落ちている。感覚は無重力。
縦横連続開転も出来ちゃう。姿勢は自由自在だ。
50秒落ちた。高度1000mでコードを引く。
ガクンとハーネスが股間に。パラシュートが開く衝撃。
見渡せば、橙、紅、黄、浅黄、蜜柑、渋茶。
色彩の饗宴。錦絵の如き晩秋の鳥観図。
ヨーロッパやアメリカでも秋に飛ぶけど、
落葉樹の種類が日本ほどは無い。
バードアイ、鳥の視線。
利根川や霞ヶ浦の水面が反射で光り輝いている。
サーマル上昇気流に乗ってご機嫌のトンビの声。
ドルフィライダーを卒業してやっと可能になった
お楽しみ、スカイダイビング。
子供の頃から走るのが遅くて体育が嫌いだった。
入隊して筋トレしても、いまいち遅かった。
同期の佐藤が「足の指を開くと早くなるかも」
足指でグウチョキペア。ぢ面をつかんで離す。
平均台とかのコツだそうさ。
記録は上がった。佐藤と4人で銀を取った。
やればできる。願えば叶う。佐藤感謝だ。
だがな、ジャグリングのワークショップで習ったつつう
自分の足と手の恋人つなぎは、すげえポーズだな。
リンパに効くってか。遠慮しとくぜ。

渡辺富之は、力みが取れない。
ナイター照明に光るニセコヒラフゲレンデ。

スノーボードのカービングターンにきしむ雪音。
旅行客は夕食で宿の時間。彼らがナイターに出てくる前に
インストラクタはスキルアップ講習会開始。
貸切ゲレンデは気温が下がって雪が締まる。
昼間よりよく滑る。
うまくなったきっかけは、
鴨川のサーフショップ仲間の佐藤さんの一言。
「渡辺さん、板の上で身体をゆすってみませんか」
ポジションさえ良ければ、道具の性能が良くて立てる。
しかし、ボードを操るのは技がいる。
へっぴり腰でガッチガチに緊張していたことに気が付く。
まっすぐ立って、プラプラ手足頭をシェイク。
ゆすってみたら、足裏に波の息吹が伝わってきた。
太陽、月、地球、遥か彼方の低気圧の作るのは、
雪面と違う変現万化のゲレンデだ。
滑り台と知覚したら、めっちゃ楽しい。
体幹も鍛えられるし、居合で気配を消すってのもこれかなあ。
お陰で、空手で金獲得。
空手と合気道で徒手空拳も修めた。
剣道師範は「居合は日舞だ」
居合師匠は「剣道はチャンバラゴッゴ」
武芸百般、両方出来て当たり前なのに。
謙虚さって重要ですね、佐藤さん。

「どうもおどうもどうも。」
「わてナノマシンaです。」
「なのましんBどすう。」
「長いことショーもないうんちく話
お付き合い頂きまして誠にお疲れさんどす。」
「ええとお、ナノマシンちゅうのんは、
むちゃくちゃ小さい機械っちゅう意味ですわ。」
「しかし佐藤零ずるいっす。
一言だけですよおくなるはず、あるわけないやん。」
「俺らが乗り移って機能強化しとるおかげやん。」
「零のおてがらみたいになっとる。」
「わてらは6500万年前にユカタン半島付近に落ちまして」

「すんません、えらいことをしでかしましてん。」

「気候変動に大絶滅ちゅうこつ引き起こし75%の生命をなきものにしてまいましてん。」

「バグった、暴走ナノマシンが船の制御を破壊してまいましたんや。」

「しくじったんは、うちらを創った奴らでっせ。」

「あいつら事故で全員消えちまいましたがなあ。」

「さあて、わてら色々でけます。」

「わてらの事を感覚的に認知したのはモンゴロイドが多かった。」

「アイヌ、イヌイト、ナバホ、アボリジニ、アステカ、ポリネシア。」

「神とか思い込んどったでえ。」

「生き物を遺伝子レベルで補強して
分子レベルで再生復活とかできまんねん。」

「創った奴らは、綺麗に消滅したもんで、再生はあかんかったんすけどね。」

「とりあえず、Ⅲ第三惑星Ⅲ地表の・・・」

「わからんちゅうねん。地球の、でんがな。」

「そや、地球の恐竜の一部を鳥にして延命。」

「小型哺乳類も何とか救いましたんや、えっへん。」

「えっへんやない。仰山消してしもうたくせに。」

「ほんま、引っ掻き回すんもめっちゃ得意でんがな。」

「ばぐった奴らも頑張っている。」

「新しい感染症をセッセと作る。」

「迷惑なやつちやなあ」

「あくどい人間もおったでえ。」

「そや、こいつらを有効利用して、征服した歴史もある。」

「免疫無い中米やハワイにアフリカの感染者連れてった。」

「既存勢力衰退後、楽に掌握。」

「えばんなって、あかんやろ。しらんけど。」

「でた、しらんけど。便利な言葉やなあ。」

「当事者やあにゃい素振り。でもあかん。」

「あんたやろ。悪の権化は。煩惱のどばあとやん。」

「どばあと？渋谷東急っデパート取り壊しも始まって私語やがな。」

「好奇心、ケイコとマナブ。」

「そなんあったな昔の習い事情報誌。」

「おもしろいこと仰山在りすぎて
何処からてをつけたらええんかわつからん。」

「なんでもええねん。」

「そんなときびびっときたもんにとびついたらええねん。」
「すぐおわっちゃうし。」
「ほんますぐやないこいつら。」
「ええんちゃうすぐの方が退屈せんで。」
「おもろいもんいっぱいなのにな。
やらないおもしろさもあるらしいで。」
「ふっかいなあ。しらんけど、」
「この星には迷惑かけたで
罪滅ぼしにもうしばらくおらしてもらおう。」
「あんま おいたしたらあかんで。」
「この星の人って奴は、妙に勝ち負けにこだわりますな。」
「他の人の迷惑にならんかったらええのんちゃう。」
「性別もな。人種もコダワリが半端ない。」
「ボーリングとか弓みたいんなら性別関係あらへん。」
「表情変えた回数出来そうあれ、なんやったけ。」
「健常者と対等に行けるで。」
「やばい、そろそろ気づきよるかもかも。」
「スパコンで解析したら、進化に作為があるんやないかやて。」
「おかしいゆうとる研究者いてはるらしいで。」
「非科学的やな、神がかりかい？」
あ、わしらがむかしは神だったから、当たっているのか。」
「この星の技術もようやととでけるみたいやん宇宙旅行。」
「銀河辺境でこれだけおもろかったら、中心はもっとこゆいな。」
「そろそろ次イコカ。」
「罪滅ぼしは、ええんかい。」
「えーねんえーねん、次や次」
「さよか、ほなまたいつか何処かで。」
「さいなら」

おしまい